

### あってよかった弁政連

京都弁護士会 会長 吉田 誠 司

2023年5月12日、弁政連の木内哲郎支部長を先頭に、大脇美保日弁連副会長（当会選出）、浅野則明近弁連理事長（同）、大島麻子日弁連理事（同）、田箆明副会長と私で、東京の議員会館まで国会議員の先生方を訪問してきました。日弁連が本年度最重要課題の一つとして進めている再審法改正への賛同メッセージと院内集会への参加をお願いするべく、京都選出の国会議員19名を訪ねて回りました。

当日はあいにく衆参両院とも本会議が入ってしまったのですが、本田太郎衆議院議員、泉健太衆議院議員、福山哲郎参議院議員、前原誠司衆議院議員、井上哲士参議院議員、倉林明子参議院議員には何とか時間を作っていただき、直接ご本人と面会できました。秘書さんが対応されたケースでも、好意的にお迎えいただき、当方からのお願いと資料を快く受け取ってもらいました。「党内で勉強会をしましょう」と言ってくれた議員もあり、日弁連理事会でこの成果を報告すると驚嘆の声が上がったほどです。特に再審法の問題は、前年度の鈴木治一当会会長ほか理事者の皆さんが、弁政連を介して、それを各党との意見交換会のテーマに設定してくれたために、すでに多くの議員の方々が高い関心をお持ちでした。他の地域の弁護士会が地元議員とのアポ取りにすら苦労する中、日頃から弁政連を介して議員の皆さんとお付き合いしてきた京都弁護士会は極めてスムーズに運びました。京都に弁政連があってよかった。

議員会館の廊下では、いろいろな人が陳情や要請に歩いています。もっと私たち弁護士はそこへ行くべきです。行って四方山話しをするべ

きです。法改正の要請や意見書、所属の委員会活動のための国会情勢調査や勉強会などはもちろん、特に何の用事がなくても行く、というのが逆にいいかもしれません。新役員が就任した挨拶でもいいし、新たに議員になった先生を励ましに行くのもいい。国会見学の案内をしてもらうのでも、日弁連に用があつて来たから議員会館食堂でランチでもどうですか、でもいいでしょう。面識がなければ、弁政連京都支部が、いつでも紹介をしてくれますので、頼ってみてください。

若い弁護士の皆さん。中堅弁護士の皆さん。もっと政治家と普通の自然なお付き合いをしましょう。それは、それ自体、結構楽しいことです。政治家の皆さんは、当然ながら選挙された人々であるだけに、民の声を聞くという度量を持っておられます。人と会話をする、人の心を掴むことの技量に優れています。勉強になります。そしてその経験は、弁護士として困難な課題に立ち向かう場面が来たときに、必ず、「新しいドアを開く鍵」となると思います。



(議員会館から国会議事堂を望む)



(議員会館食堂の「国会カレー」)

## 日本共産党 倉林明子参議院議員へのインタビュー

日時：2023年7月28日午後4時～5時

場所：京都弁護士会館3階中会議室

インタビュアー：木内哲郎（支部長）

大島麻子（理事）



倉林明子議員は、京都府議1期、京都市議5期を経て、2013年（平成25年）7月に参議院京都選挙区で当選、現在2期目で、厚生労働委員会、行政監視委員会、消費者問題に関する特別委員会に所属し、共産党副委員長・ジェンダー平等委員会責任者を務めておられます。

**木内支部長：**

先生は、最初は京都府議に立候補されたのですね。

**倉林議員：**

中京区の定数1の補欠選挙に初めて出ました。当時、民医連で看護師をしていたのですが、国民健康保険証がもらえなくて命を落とす人がいたりして、医療現場を分かっている候補者を出したいという要請があったのです。当選するとはまったく思っていなくて、落選して病院に戻れると思って出馬したのです。

**木内支部長：**

当選するとは思っておられなかったんですか。

**倉林議員：**

そうです。当選した翌年1月に阪神淡路大震災が発生しました。救急車を出してもらって、現場の病院の支援に入ったのですが、阿鼻叫喚でした。次々に救急室に患者さんが運ばれてくるのですが、すぐに人口透析をしないと助からないのです。京都の病院にヘリコプターで運

べたら、かなり命を救えたのではないかと思います。本当は1年で病院に戻るはずだったのですが、政治がもっと変わればできることもあると思います、議員をずっと続けてきました。

看護師として現場にいる時、病気がよくなっても介護が必要だと高齢者はご自宅に帰れなくて、老人病院に転院せざるを得なくなり、2、3か月で亡くなってしまうことがありました。現場の支援では限界があるということを感じていました。

**大島理事：**

京都市議から国会議員になられて、いろいろな委員会に所属されておられますが、弁護士会が出した意見書などはご覧になるのですか。

**倉林議員：**

私はすごく参考にしていきますよ。特に、消費者問題に関しては、明快に、問題点もよく掘り下げられていますし、消費者特別委員会でいつも参考にして議論させてもらっています。この間も、京都のお断りステッカーが、府と市で違うという問題を提示してくださったので、早速それを取り上げました。

**木内支部長：**

弁護士から直接レクを受けることもあるのですか。

**倉林議員：**

もう頻繁にあります。消費者問題や生活保護だけでも何回もありました。

**大島理事：**

今年5月、再審法の改正に関して日弁連が議員への一斉要請行動を行ったのですが、京都の弁政連も一緒に取り組みました。先生にも議会中にもかかわらず対応いただき、ありがとうございました。

**倉林議員：**

いえいえ、とんでもないです。レクを受けて改めて認識したのですが、あまりにも権利性がないというか、権力バランスがかなり検察側に偏っていますね。死刑制度が残る一方で、再審法の課題はそのままになっているというのは、法律として100年以上遅れていますね。

**木内支部長：**

検察が袴田さんを有罪立証するという報道が

されていましたが、再審法改正は許さんぞという検察庁の意思表示かな、と思います。

**倉林議員：**

1回判決を受けたら、死んでも名誉を回復できないともいえるこの制度の仕組みは、あまりにも不条理です。何回も殺されているようなものですよね。

**大島理事：**

先生は元看護師ということですが、マイナンバーの保険証についてはどう思われますか。

**倉林議員：**

厚生労働省が何年も前から進めていたのですが、最初からうまくいっていません。こんなところに手を出して大変なことになるのではないかと思ったら、案の定と言いましょうか。マイナンバーは保険証ではなく、鍵なので、これだけでは資格確認はできないのですよ。被保険者番号があれば資格の確認ができますが、マイナンバーカードは、顔写真とマイナンバーと住所と名前なので。

**大島理事：**

医療現場でも困っているのですね。

**倉林議員：**

私は看護師でしたが、医療も看護もチームで提供するのです。メンバーの1人だけがどんなにできが良くてもダメで、チームとして目指すものを患者さんに提供できた時に、初めて24時間の安心ができるという仕事なのです。チームが多様である必要があって、結婚して妊娠して子どもができたなら「さよなら」という集団ではダメなのです。いろいろな受け皿を持っている人たちが患者さんに接することで、いろいろな気づきも出てきます。要するに、集団としての医療や看護の質を決定づけるのは、チームの多様性と、技術や質の高さだと思っています。ですから、ずっと働き続けることができること、積み重ねられた人生を仕事に活かせることというのが、看護師をしている時の確信でした。そういう視点はずっと大事にしているところですね。

**大島理事：**

いま、共産党のジェンダー平等委員会の責任者もされていますね。

**倉林議員：**

やはり個人の尊厳がキーワードだと思っています。生きづらさが解消され、その人らしく個人の尊厳が尊重される社会というのはどうあるべきなのか、と考えたとき、およそ半分を占め

る女性の格差を是正するということを柱にしつつ、解決の道筋は、多様な生命の尊重、多様な人権の尊重につながっていくと思います。ジェンダー平等というのは、共産党が綱領に掲げてまだ3年なのですが、綱領に掲げたことで、全議員が主流の課題として取り上げるようになりました。

**大島理事：**

共産党は、比較的女性議員の比率が多いのではないですか。

**倉林議員：**

衆議院では10人のうち2人しかいません。ですから、今度の総選挙では、比例代表での名簿の順位を、東京は女性から始め、近畿は男性、次の選挙区は女性、というふうにして、劇的に変えようとしています。

**大島理事：**

それは変わりそうですね。最後に、弁護士会に期待することなど何かありましたら。

**倉林議員：**

とても心強いと思ったのは、安保法制の時です。すごく大変な局面だったと思うんですけど、政府に付度することなく、駄目なものは駄目だと主張していたことです。社会正義の実現といいますか、とにかく感動しました。あれがあったからこそ、いろいろな皆さんが立場の違いも乗り越えられ、共闘できたと思います。

**木内支部長：**

ありがとうございます。





## 自由民主党 京都市会議員団、京都府議会議員団、 京都選出の国会議員との意見交換会(勉強会、懇談会)

弁政連京都支部は、2004年(平成16年)3月に設立以来、弁護士会の活動や課題を議員の方々に知っていただくとともに、議員の方々からのご意見を弁護士会の活動の参考にさせていただくという目的のもと、国会議員、府議会議員、京都市会議員の議員の皆様と京都弁護士会との意見交換会を実施してきました。2018年度(平成30年度)からは、政党毎に開催するという形式に改め、この形式での開催も定着してきたように感じます。

さて、2023年度(令和5年度)につきましても、各政党との間で意見交換会(勉強会、懇談会)を順次開催しております。11月末までに、下記のとおり開催いたしましたので、ご紹介いたします。

### ○京都市会議員団との意見交換会

2023年(令和5年)9月1日

テーマ:

- ①入口暴排について(少年を反社にさせない)
- ②子どもの貧困について
- ③災害対策について

ご出席いただいた議員の皆様:

橋村芳和議員、田中崇則議員、寺田一博議員、田中明秀議員、津田大三議員、井上与裕議員、櫻井泰広議員、繁 隆夫議員、島本京司議員、谷口みゆき議員、西村義直議員、平山貴大議員、道端弘之議員、椋田隆知議員、森田 守議員、山本修士議員



### ○京都府議会議員団との勉強会

2023年(令和5年)11月1日

テーマ:

- ①入口暴排について(少年を反社にさせない)
- ②子どもの貧困について

ご出席いただいた議員の皆様:

荒巻隆三議員、中村正孝議員、藤山裕紀子議員、磯野 勝議員、

宮下友紀子議員、青木義照議員、大澤彰久議員、小巻久美議員、渡辺邦子議員、瀧脇正明議員、家元 優議員、武田光樹議員



### ○京都選出国会議員との懇談会

2023年(令和5年)11月16日

テーマ:

- ①オンライン接見について

ご出席いただいた議員の皆様:

本田太郎衆議院議員



上の3回について、弁護士会からは下記のとおり吉田会長を初めとして、副会長、担当委員会の説明員に出席いただきました(各回につき出席者は異なります)。

弁護士会:

吉田誠司会長、民谷 渉副会長、田箆 明副会長、増田朋記副会長

弁護士会説明員:

赤尾啓太会員、谷口和大会員、徳安勇佑会員

弁政連:

木内哲郎支部長、日下部和弘副支部長、山地敏之事務局長、田中継貴事務局次長

議員の方々におかれましては、ご多忙にも関わらず、お集りいただきましたことをこの場を借りてお礼を申し上げます。

(文責 事務局次長 田中継貴)

## 編集後記

事務局長 山地敏之

今年度は何年かぶりで弁政連ニュースを年2回発行することができました。

2023年度始まってのち、新役員の議員挨拶、倉林明子国会議員へのインタビュー、自民党議員団との意見交換会など精力的に活動を続けています。その結果が2回発行につながったと思います。人と対面できる日常を嬉しく思いますし、対面して率直に意見交換できることの大切さを改めて実感しています。

今年の夏は「何年ぶり」、「観測史上初」という暑さが続きました。暑い夏は避けてほしいですが、弁政連ニュースは来年度も続けていきたいと思っています。

年末も近づき年度末が視野に入ってきましたが、各政党との意見交換会を始め、たくさんの予定を計画しています。引き続き、弁政連の活動にご協力いただきますようお願いいたします。